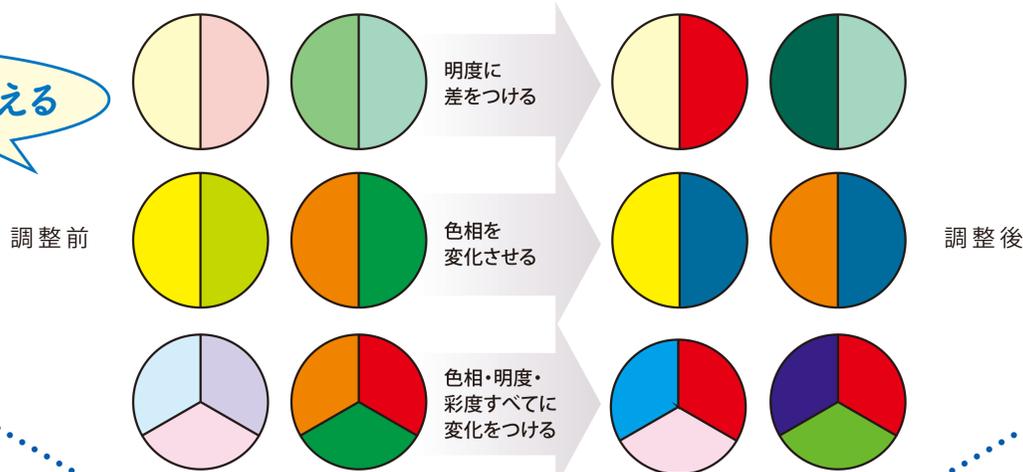


# カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

## A できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ

サングラス上のフィルターを利用した「バリエントール」や、携帯電子機器のアプリケーションソフト「色のシミュレーター」、パソコンソフトの「フォトショップ・イラストレーター」のチェック機能などを使って、色の配色が見分けやすいものを選んでいきます。

色相・明度・彩度を変える



調整前

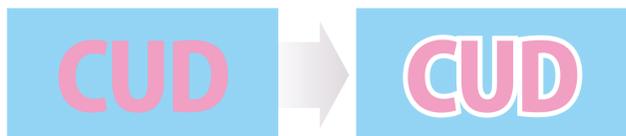
調整後

出典：ハート出版「CUD」

セパレーションを使う

調整前

調整後



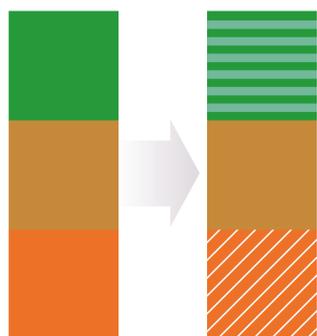
補助情報を入れる



ハチング（地模様）を使う

調整前

調整後



表現方法はこれだけでなく多用である。

出典：ハート出版「CUD」

## B 色を見分けにくい人にも、情報が伝わるようにする

色覚の違いは多様なので、どんなに配慮してもすべての人に見分けやすいとは限りません。そこで、色以外のデザイン要素でも違いをつけることが大切になります。

例えば、色と色の境目に白や黒の境界線を入れたり、線を太くする、色面積を広くするなど、いろんな工夫が考えられます。

## C 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする

最近のテレビのリモコンには、青・赤・緑・黄のボタンが付くようになりました。そのボタンには色の名前も書いてあります。施設の案内のために、床や扉に色を使っている場合、「緑の扉へ行ってください」と、色だけで指示をしても分からないことがあります。サイン自体に「緑」と色名を書いておくことで対策ができます。